

SDGs実践講座 廃油で石けんづくり

◆ ねらい（解決したい地域課題）

倉敷市船穂地区では、消費生活学級の皆さんから30年前から廃油を回収したり、その廃油から石けんを作ったりなど、環境に配慮した活動を行っている。身近な生活の中でできる廃油石けんづくりを通して親子でSDGsの実践や地域活動への参加を促す。

◆ 活動の様子 はじめに、講師（消費生活学級）から廃油の回収など活動について話を聞きました

回収した廃油は、石けんのほかに、BDF（バイオディーゼル燃料）に精製されて車の燃料になっています。



11 住み続けられる
まちづくり
20 分間混ぜます
子はお母さんと一緒に
搅拌機が重く低学年の
搅拌機で廃油を加えて搅拌機で



苛性ソーダやミカンの皮の搾り汁、EM活性液などを入れ木杓子で混ぜます（薬品を扱うため安全を考慮して大人が作業しました）

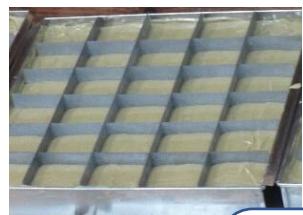
12 つくる責任
つかう責任



EM 活性液



石けんを乾燥させるには約
一ヶ月かかるため、受講した
皆さんには事前に作っていた
石けんを渡しました



◆ 講座を終えて（成果と課題や今後の見通し等）

アンケートでは、SDGsについてほとんどの受講生は知っており、関心の高さはうかがえたが、「実践しているか」の問い合わせには「していない」と答えた受講生が「実践している」と答えた受講生を上回った。

船穂地域では、廃油石けんを卒業式やイベントなどでプレゼントしているため、廃油回収などの活動が知られているが、他地域の受講生はほとんど知らなかった。質問コーナーでは、他の地域の団体の紹介などもでき、受講者が住んでいるそれぞれの地域の団体との橋渡しになれたのではないかと思う。また、家でも廃油石けんを作りたいと家庭での作り方を質問される方もいた。

本講座を通して、それぞれがSDGsを身近なところから実践していくのではと期待している。

笠岡市新山公民館

リトルDAY!!

～公民館1日開放・子ども&だれでも食堂～



ねらい

「新山まるごとひとつの家族」を地域の実現させたい夢に掲げ、世代間交流と夏休みの子どもたちの居場所づくりを目指す。公民館を1日開放し、子どもも大人も誰もが気軽に集える交流の場を提供する。活動を共にすることで、地域住民の温かい繋がりを育み、孤独の解消と地域の一体感醸成に寄与する。



活動の様子

実施日：8月18日（月）



新山地区更生保護女性会と共催
「子ども&だれでも食堂」で
昼食にカレーを子ども無料、
大人100円で提供。
野菜等も地域の方からいた
だきました。



今年度おかやま子ども応援事業に申し込み、「新山公民館わくわくチャレンジ教室」の一環として主催しました。
その一つの「学習支援・キッズヨガ」も盛り込み、午前中は、夏休みの宿題や、プリント学習をしました。



夏の癒やし・「こけだまづくり」
館長自ら山でこけを採取、98歳の女性、ママに
プレゼントの男の子等々、すてきなこけだまが沢山
できあがりました。



効果

子ども27人、大人25人の参加でした。ピアノの練習をしているときに、子どもたちが自然に集まり、一緒に歌い出す様子は見ていて感動的でした♪。昼食時の団らんや多様な活動を通して、子どもや地域高齢者などが、自然な形で触れ合い、温かい繋がりを生みだすことができました。昨年に続き2回目の開催でしたが、来年も内容を工夫し、夏休みの恒例行事として、より多くの地域住民に周知、定着させていきたいです。

ふれあい水田米作り体験



～田植え・稻刈り・脱穀・縄ない～

北川地区では毎年、北川小学校の5年生がふれあい作業応援隊・北川まちづくり協議会・愛育委員会・更生保護女性会・5年生保護者・地元有志の方々と一緒に、田植え・稻刈り・脱穀の体験をしています。

☆ 目的

北川小学校の「米作り」体験学習を支援するとともに、世代間交流を図り活力ある地域づくりを行うことを目的とする。

☆ 活動の様子

6/18 田植え

みんなで一列になり自分の手で苗を植えていきました。足の指の間に泥が入ってくる感触にびっくりしている様子も見られました。



10/22 稲刈り

鎌の使い方を教えてもらいながら稻を刈っていました。今では少なくなっている鎌での稻刈りは貴重な体験です。



10/29 脱穀・縄ない

昔の道具を使っての脱穀体験と機械を使っての脱穀体験と両方を経験しました。稻わらを使っての縄ないではコツを掴むまでは苦戦していましたが、うまくできた時の笑顔が印象的でした。



☆ 効果

子供たちから「自分たちで田植えをして、稻を刈って、脱穀をして、米作りがどれほど大変なのか知ることができた。」「今まで以上にお米を大切に食べたい。」などの感想があり、米作りの方法や苦労を知るとともに食の大切さを学ぶことができたと感じました。また、世代間でも自然に交流する様子がたくさん見られました。12月の文化祭での餅つきも楽しみです。



平成7年度 岡山県 「公民館職員が選ぶ！第9回講座アワード」

リニューアル寿大学院 井原市中央公民館

ねらい(解決したい地域の課題)

- ① 高齢者の生きがいの創出の場として「寿大学院」は44年前に設立された。近年は定年延長などの影響により登録者数は減少する傾向にある。
- ② 生涯学習のオンデマンド化が進み、中央公民館の高齢者大学は時代のニーズを反映させながらニューアルすることが望まれている。



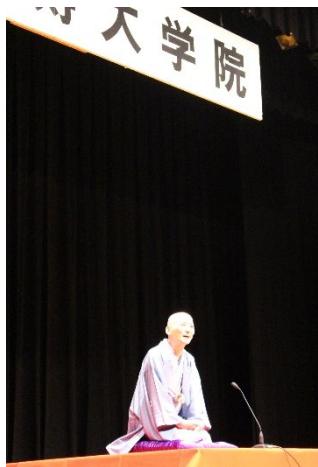
和尚さんの法話



お茶の試飲



歴史講座



プロの落語家



平櫛田中美術館見学・学芸員の解説

学習風景



講座を終えて (成果と課題 今後の見通しなど)

- ① 講座の魅力がほしいという参加者の声を受けて講師の選択を再検討した。広報活動と参加者の口コミも重視して参加者の掘り起こし図る。
- ② 持続可能な運営にするため運営委員会を再編成し受講生のニーズに対応する。

総社市中央公民館

カミガツジキャンパス 2025

◆ねらい（解決したい地域課題）

生活を豊かにするための知識を学習したり、県内の文化、歴史や伝統に触れる講座全10回を1事業として実施することで、興味のある講座を切り口に今まで興味がなかった分野の講座にも参加してもらいやすくし、生涯学習の場や機会の不足の解消及び学習を通した世代間交流を推進する。

◆活動の様子 第1回（開講式）「パンフルート演奏鑑賞」の様子



演奏はもちろん、パンフルートという珍しい楽器にまつわるお話や
講師の井上さんのユーモアあふれるトークに皆さん大満足でした！

◆効果（参加者の声等）

参加してくださった方から「来年はこんな講座をやってほしい」「来年も参加したい」などの声があり、更なる学習への意欲が湧いている様子が見受けられました。

様々なジャンルの講座を幅広く設定することで、学習へのきっかけづくりになっているのではないかと思います。

高尾公民館

おもしろ科学実験教室

－水素と液体窒素でふしぎ体験－

◆ ねらい（解決したい地域課題）

中山間地域では、日本の産業を支える科学技術情報が不足している。

そこで、地域の子どもや希望者に水素燃料等の科学技術に接する機会を設け、地域における先端技術の情報不足を補う。

◆ 活動の様子

地球温暖化だって～



① 水素燃料に関する基本講座

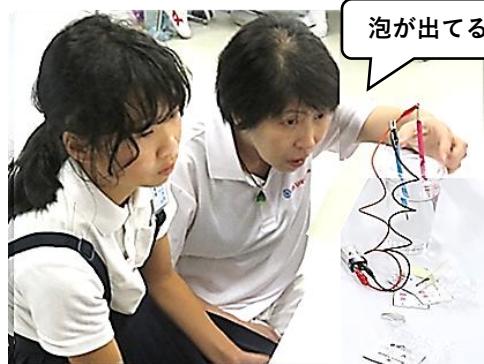
石油や石炭などの使用で発生する二酸化炭素が、温室効果ガスの約3/4を占め、地球温暖化の原因の1つになっていることや、空気の約20%を占める酸素と水素燃料電池を使ってクリーンなエネルギーを生み出すため「水素ステーション」が既に設置されていることなどを質問形式で学びました。

② 水素燃料電池の制作

プラスティックのコップに水と食塩を入れ、乾電池につないで水素を発生させて水素燃料電池を作りました。そして、配線をオルゴールにつなぎ直して、鳴らすことに全員が成功しました！

水素の発生や自作の水素燃料電池が有効に機能することを確認して、水素燃料電池の基本を実感しました。

花が一瞬でカチカチ！



③ 液体窒素でマイナス186℃体験

空気の約70%を占める窒素を沸点以下にした液体窒素で、花やボールが瞬時に凍って粉々にできる様子を体験しました。

また、風船やフィルムケースが温度変化でいろいろな現象を起こすことも観察し、科学の不思議さを体験しました。



◆ 効果（参加者の声等）

「普通にある水やお塩で水素燃料電池を作れてよかったです。科学ってとっても大切な分野だと思いました。」

「空気をマイナス186℃に冷やすと体積が700分の1になっちゃうんだなことが起きたことが見られて、とてもわくわくしました。」

などの声があがり、未来に役立つ科学に興味を持ってもらえたようです。

Trick or Treat!! Happy Halloween in 哲西

「ハッピー・ハロウィン in 哲西」のねらい

☆地域内外の人が楽しめる活動にする

☆冒険心を発揮して、仮装し少し違った自分になる

☆手作りのあたたかみのある内容にする

☆交流を楽しみ、ふるさとの良さを再確認する



カボチャコンテスト参加作品



当日いろいろな仮装で参加しました



※各種バザー 10:00～ 飲食物販売、哲西中学校3年生のゲームコーナー
「顔出しパネル」「トリックオアトリート」10:00～ お菓子をもらおう
「カボチャコンテスト」11:30～ みんなの心に残るカボチャを表彰
「仮装コンテスト」13:00～ ジュニアの部、ファミリー・大人の部で開催

令和7年10月25日(土) 開会式 11:00～14:30

【にーみんと一緒に仮装し芸備線に乗って参加しよう】

新見市公募型鉄道利用促進事業を活用し、17人で仮装して、「にーみん」と芸備線に乗り、会場まで来ました。芸備線の再発見ができたのではないでしょうか？



活動を振り返って:哲西公民館 0867-94-2110

この事業は、今年で2回目の行事になります。行政主体ではなく、地域の方が「カボチャの種を配って、みんなに育ててもらいコンテストをしたらどうかなあ」という声から始まりました。今回は哲西中学校の3年生がゲーム(射的、千本引き、スライムづくり)と販売(スイートポテトライ、オレンジスカッシュ)のブースを出店してくれました。約300人の参加があり、ほのぼのとした会になりました。



瀬戸内市中央公民館

親子de体験みつカルせとうち

◆ねらい（解決したい地域課題）

瀬戸内市では、邑久地域の糸操り人形劇文化や長船地域の菊づくり文化をはじめ、次世代の育成及び文化の継承が課題となっている。特にコロナ禍以降は公民館利用や文化祭への参加、市民講座である登録グループなどほぼ全ての分野で縮小している。

次世代の担い手である子どもたちを対象とした複合的な芸術文化体験イベントを開催し、高校生や文化協会の団体、公民館登録グループなど「瀬戸内市のセンパイ」と一緒に楽しく学習する機会とする。この経験によって、将来、生涯学習や芸術文化活動に興味や関心をもち、参画していくきっかけづくりを図る。

◆活動の様子

「親子de体験みつカルせとうち in Summer」

令和7年7月26日（土曜日）
ゆめトピア長船



講師陣も子どもに
教えることで
フィードバックや
文化の継承に
つながります！

夏休みの図画と
書道の宿題が
楽しく上手く
書けました！



邑久高校美術部の
センパイが優しく
分かりやすく
教えてくれました！

「親子de体験みつカルせとうち in Autumn」

令和7年10月11日（土曜日）
ゆめトピア長船



このイベントは、
公民館登録グループ
(市民講座)、
文化協会、学校、
NPO法人、
市内演奏家、
歴史愛好家、
こども食堂、
各種教室などとの
協働を通じて
開催しています！
**おらがまち
パワー！**



音が鳴った！
吹奏楽部でも
続けたいな！



むむむ…。
どうプログラミング
したらレゴのミニカー
が曲がるんだろう。

◆効果（参加者の声など）

7月開催では、夏休みの宿題（図画、書道、郷土の歴史）と連動した講座を実施した。「宿題が終わるだけでも嬉しいのに『高校生先生』と楽しく描けた！」「僕も高校に行くまでに絵とか習字とか上手になる！」といった声が聞こえた。参加人数は309人。（3講座）

10月開催では、ゆめトピア長船全館規模で開催。17の体験講座を準備し、充実させた。「ゆめトピアに（長船町）公民館が移転してイベントが増えて嬉しい。」「箏の先生が近所の人だった。」「次は弟も連れてくる！」「みつカルカード（スタンプラリー）をクリアして『日本一のだがし売場（協賛企業）』の駄菓子をゲットできた。」といった声が聞こえた。参加人数は2,121人。（17講座）

子どもの頃の充実した経験が、将来の「やってみたい！」につながると信じている。今後も子どもや保護者にとってこのイベントが身近なものになるように継続していく必要がある。

瀬戸内市公民館
YOUTUBE
チャンネル

さらに
充実した
活動の様子は
動画で
どうぞ！





「郷土料理教室」



ねらい(解決したい地域課題)

久世公民館では、料理に興味がある子・郷土料理について知りたい子に対して学ぶ場を提供するべく、郷土料理教室を開催しています。児童だけでなく、保護者の方々も一緒に参加することができる活動です。1年に2回開催しており、第1回目「けんびき焼きに挑戦！」では7組(児童7名、保護者5名)、第2回目「おこわに挑戦！」では、6組(児童8名、保護者6名)が参加しました。

活動の目的

- 料理への興味関心・きっかけ作り
- 郷土料理に関する知識の習得
- 料理の基礎・基本の習得
- 真庭産の食材・調味料などを使った「郷育」

活動の様子

第一回目「けんびき焼きに挑戦！」



第二回目「おこわに挑戦！」



上手に切れたよ！



感想

- 初めてけんびき焼きを作ったし、親子で参加できてよかったです。(児童)
- けんびき焼きがどんな食べ物かを調べてみたり、ミョウガの葉を見たことがなかったりと作る前から勉強になりました。(保護者)
- おこわを食べたとき美味しすぎてエネルギー100%になりました。(児童)
- いつも炊飯器や蒸し器で作っているおこわが、レンジで簡単に作れることに驚きました。(保護者)

「ふれあい広場 池の水全部抜く」

ねらい

①十数年間、因幡街道大原宿の本陣前のふれあい広場の池の掃除ができないないので、何かみんなできれいにできないか。

②小学生に地元にある史跡に関連した施設について認識を深めてほしい。地元の団体が行う施設の清掃作業などに参加し、皆で協力して心地よい景色を訪れる人に感じてもらいたい。あわせて郷土の自然環境に関する理解も深めてほしい



効 果

①地元団体(古町を活性化する会)の会員と小学生での池の土砂のバケツリレーなどの共同作業を通じて世代間交流の場面も見られた。

②自然に囲まれてはいるものの、水辺の生き物を実際に見たり触れたりする機会は少ないので、専門講師による 池の水生昆虫、魚の観察を通して自然環境を保つことの大切さを感じてもらえた。

令和7年度 作東公民館

地域が共鳴♪バレンタイン♡ピアノコンサート

◆ねらい（解決したい地域課題）

令和6年1月4日に利用開始した作東公民館の1周年と利用者1万人突破を記念し、ピアニストの田村縁さんをお招きしてコンサートを開催。利用者同士の連携と子どもたちの参加促進をさらに進めたい。

◆活動の様子

2月14日夜のピアノコンサート



▲ハンドベルの音で会場が共鳴しました

卒業式の歌を練習するとともに、音の楽しさを学びました



▲2月13日作東中学校の音楽授業に参加



▲ピアノ・合唱の3グループがゲスト出演

この備前焼のランプシェードの中に明かりが灯され、コンサート会場を彩ります



▲1月10日ランプシェード作り教室

◆成果と課題

2月14日のバレンタインデーの夜にコンサートを開催。前年9月にコンサートで来館した田村縁さんがピアノ演奏し、公民館で活動する3グループがゲスト出演。公民館講座ランプシェード作り教室に参加の皆さん的作品が会場を飾り、近所の101歳のおばあちゃんからはチョコレートの差し入れがあり、利用者の多くが参加してお祝いができた。

この流れを受けて、10月4日のお月見コンサートでは雅楽器・ピアノ・ギターの三重奏と地元コーラスグループが共演。館内で同時開催した「小さい秋見つけた展」では、地元保育園・幼稚園・小学校・老人ホームや公民館で活動するグループが「秋」をテーマにした作品を展示。地元をあげて中秋を楽しむことができた。今後も、利用者や地元の人を繋いだ活発な活動を展開していきたい。

コンサートの余韻の中で花火があがり、地域が共鳴



▲コンサート終了後北側のバレンタインパークで冬花火があがりました

金光公民館短期講座

金光おこわをつくろう



★開催理由（解決したい地域課題）

金光地区の特産品「青大豆」は、一般の大豆より食物繊維を多く含み、甘くて低カロリーな食材だが、残念ながらあまり知られていない。この「青大豆」の魅力をより多くの方々にお伝えしたい。みなさんにおいしさを知ってほしい。

そんな思いをこめて、当館では、金光おこわの普及に尽力されている「金光おこわ伝達グループ」のみなさんのご指導のもと、定期的に講座を開催している。

金光おこわ伝達グループのみなさんといっしょに



金光町特産
青大豆！



蒸したて！
ホカホカ(*^*)い



おいしく試食
いただきます(o^o)

完成!!
おいしそう～♥



文化祭にてパック詰め
できたてをみなさんへ
お届けします♪



効 果

伝達グループのみなさんの協力を得て、講座用にレシピを調整し、少人数分の作り方を標準化するなど、なるべく作りやすくする工夫をして講座を開催している。

蒸し器の使用など個人ではいささか手間のかかるおこわ調理だが、初めて体験する参加者もみんなで一緒に作ることで調理過程も楽しめる時間を共有できた。

また、10月に開催した浅口市総合文化祭でも講座経験者が参加して販売し、多くの方々に興味を持っていただけた。

早島町中央公民館

わくわくサマータイム

◆ねらい（解決したい地域課題）

夏休みの期間を利用し、子どもたちが様々なことにチャレンジすると同時に、早島町の歴史や現状を学ぶことで地元への愛着醸成を図る。また、地域の方や学生ボランティアに先生として協力していただくことで、近年希薄化が進む地域関係の強化にも取り組み、「地域とつながり 未来を拓く 早島っ子の育成」を目指す。

◆活動の様子



お魚探検隊

早島の水路にはどんな魚がいるのかな？
色んな魚をたくさんとて、たくさん観察しました！

みんなで楽しく料理教室



自分の好きな具材を
はさんで、「おにぎらず」を作りました！
教えてもらうと意外
と簡単♪



その他にも、紙ヒコーキを作って飛ばしたり、クイズ大会やプチ運動会を開催したりしました。学年の垣根を越えて、皆で協力しながら、チャレンジを楽しみました。

◆効果

今年度は学習タイムに約90名、体験タイムに約50名の児童が参加しました。学習タイムでは夏休みの課題等に取組み、体験タイムでは上記のようなバラエティ豊かな体験を楽しみました。また、地域の方を中心に、約20名のスタッフにお手伝いいただきましたが、子どもの指導をしながら、一緒に楽しみ、交流を深める姿が印象的でした。

本事業を通して、子どもの学習意欲の向上だけではなく、地元早島への愛着醸成や地域全体で子どもたちを見守り、育てる雰囲気作りにもつながっていると感じています。

里庄虚空蔵大学 第6回総合講座 「オカリナコンサート♪」

【ねらい】(解決したい地域課題)

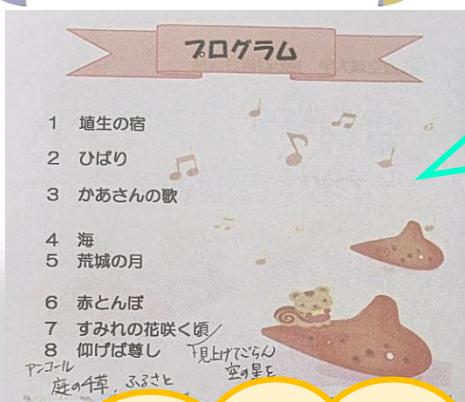
里庄虚空蔵大学は、教育委員会が行っている高齢者対象の生涯学習講座で、専門講座と総合講座があり、専門講座の受講生は、公民館で活動して身につけたことを小学校や地域の施設・サロンで活かして活躍している。総合講座は年6回計画しており、テーマを決めて必要な内容を実施している。

ここ数年、「免許返納したので」、「心も体も気力がなくなって」、「自分も近所の人も認知症じゃないかと思うけどどうしたらよいのか」、「物忘れが増えて不安だ」といった声を聞くようになり、実際に虚空蔵大学を卒業して公民館に来なくなった方もいる。在学のまま亡くなる方もいて、最期まで元気で輝いておられた様子を見ていると、公民館まで来ることのできない方も含め、地域と地域の高齢者が活きいきと笑顔で暮らすにはどうすればよいのか解決法を見つけてみたいと考える。

普段は公民館で指導・練習して、施設や公会堂で行われている地域のサロンなどに出向いて、癒しの音色を披露している。



アンコールでハーモニカを吹いてくださった「まるめろ」のメンバー。認知症カフェに参加しながら、今まで来ることで活躍している。



美しいオカリナの音色と懐かしい叙情歌に、参加者は自然と歌詞を口ずさんでいた。みんな活きいきとしていた。最後は、アンコールのハーモニカに合わせて「ふるさと」を大合唱した。



コロナの間、虚空蔵大学生の数・
講座の参加者が減り、コロナ開けの時、体力低下
や物忘れ、認知症ではと自覚する人が増えた。家から
出て講座に参加し、生きがいを持って生活することで、
症状が落ち着いて、元気になった方が何人もいる。
公民館講座に参加する人数は戻ったが、
いろいろな理由で来られない方もいる。公民館
まで来られない方をどうするか?



R5 9月
総合講座で

「オカリナフレンズ」の受講生が初めて演奏した。
今は自信をもって慰問してくださっている。

【効果】本講座は、普段よりも多い70人の参加があった。参加者は活きいきと歌い、アンコールでは、音楽グループ「まるめろ」のメンバーがハーモニカの演奏をした。里庄虚空蔵大学では、健康寿命を伸ばすべく、年度を通して高齢者が元気に生きるための講演や研修、体験を行っており、本講座もその1つである。令和6年度より公民館で「認知症カフェ」が始まり、また「自分たちにできること」と、公民館自主講座の「まるめろ」や「オカリナフレンズ」の皆さん方が、地域に出向いて活動している。一方で免許返納した方が、「公民館には来られなくなるけれど、今まで手芸講座で学んだことを、地域でボケ防止の教室としてやろうと思う」と話された。自分にできることを地域に活かし、「衰え」によって起こる困りごとも優しく見守り地域で解決しようという土壤が育っている。そして、笑顔と元気が増えている。公民館に来られないなら、公民館でスキルを磨いた方が地域に出て貢献する。昔より体力や気力が弱くなってしまってできることを新しく見つけて、できるだけ外へ出て人と関わる。そこが地域の公会堂でも良い。里庄町には良い流れができている。町民がより元気に活きいきと生活できるよう、公民館は興味を持てる講座を開いたり活躍をお手伝いしたりできる場でありたい。

矢掛公民館

防災フェスタで楽しく学ぼう！

◆ねらい（解決したい地域課題）

昨年は防災教室を実施したが、本年度は特に子どもたちの防災意識を高めるため、防災フェスタを実施した。実施にあたっては、①防災意識の喚起と向上、②災害知識・技術の習得、③実践的な体験学習、④地域防災力の向上をねらいとした。当日は、矢掛公民館体育部を中心に、矢掛町消防団、岡山県立大学消防応援隊の協力を得て、様々な体験のできるブースを設けいろいろな体験を通して防災について学びを深めることを目指した。

◆活動の様子（写真等も入れて）

防災についての紙芝居をみながら、同時に防災についてのクイズがあったので、防災について自分の意見をもつことができました。

紙芝居＆クイズコーナー



防災関連の書籍コーナー



いろいろな防災の本を読んでみると、自分の知らなかつたことがよくわかつたよ。

竹担架の体験コーナー

災害の時いざという時は、竹担架で人を運ぶことができるのを初めて知りました。

ジェットシャーダーコーナー



水消化器で消火の疑似体験をしました。意外と的に当てるのが難しかった。



◆効果

- ・いろいろなブースがあり、それぞれ工夫してあったので子どもたちは楽しみながら防災体験ができた。
- ・消防団や大学生の協力を得ることができ、多様な体験ができ参加者の防災意識も高まった。
- ・防災関連の書籍コーナーで普段読むことがあまりない本なども手に取ることができた。

金毘羅天 絵天井 現地解説会

◆解決したい地域課題

美川地区には歴史的・文化的価値の高い寺院や祠が残されているが、その魅力が地域住民に十分に伝わっておらず、文化継承が難しくなっている。

特に金毘羅天の拝殿に描かれた217面の絵天井は江戸中期の狩野派による貴重な文化財でありながら、地域の多くの住民が実物を見たことがない。

このため、公民館講座として現地での解説会を開催し、地域文化への関心を高め、地域の歴史を未来へつなぐきっかけづくりを図った。

◆活動の様子

配布資料で事前解説を受けたあと、参加者全員で車に分乗して金毘羅天へ移動し、拝殿の絵天井を見学しました。

写真のように、参加者は拝殿に入り、天井いっぱいに描かれた花鳥画や大きな龍の天井絵を見上げながら熱心に鑑賞していました。

絵天井は217面あり、中央の大きな円形の龍図と、その周囲に整然と並ぶ花鳥画が特徴です。参加者は、実際の筆致や色彩、構図の細やかさに驚きの声を上げ、田賀先生の解説に合わせて一枚一枚をじっくり眺めていました。

写真に写っているように、内部は木造の落ち着いた空間で、参加者が思い思いの場所から天井を見上げて鑑賞している姿が印象的でした。



◆効果（参加者の声など）

今回の解説会には31名が参加し、その多くが地区外からの参加でした。

参加者からは次のような感想が寄せられました。

- 「これほど細やかで鮮やかな絵が描かれているとは知らなかった」
- 「事前に解説を聞いていたことで、実物の絵天井をじっくり鑑賞できた」
- 「雪で予定変更になったが、かえって安全で分かりやすい流れだった」

今回の解説会は、雪の影響により当初の計画を変更することになりましたが、結果として安全に、そしてしっかり学べる講座となりました。

金毘羅天の絵天井は、地域の歴史や文化を伝える大切な財産です。

今後も、このような機会を設け、より多くの方にその魅力を知っていただければと思います。

● ねらい(解決したい地域課題)

- ・矢掛町内、また小田地区内でも交通事故が年に数回起こっているのが現状。
- ・カーブミラーの汚れや破損があると視界が悪くなり、車や歩行者が見えづらくなる。
- 定期的な点検と清掃により視認性が高まり、事故のリスクを減らしたい。
- ・危険箇所を把握し改善することで、「安心して通行できる地域」になる。
- 住民の不安が減り、結果交通事故防止へつながることを目指す。

公民館の交通安全部と井原交通安全協会小田支部との共催事業

小田地区
のみ

● 活動の様子

【春と秋の交通安全運動週間や始業式に合わせて実施】

洗剤を付けて雑巾で清掃



点検表に記入

- ・ヒサシのチェック
- ・鏡の曇り
- ・ポールの錆、歪み等

看板等の確認



危険箇所のチェック



ツルの絡まりの撤去



交差点のグランドライトの破損

地区別に報告

のぼり旗設置

● 成果

- 役場町民課と連携することで、不良箇所が減少し、安全の担保が成されている。
- 地域の方から「ミラーの角度が変わってよく見えるようになった」など感謝の声が届き、役員のモチベーションにもつながっている。
- 危険な場所の再確認ができ、地区民一人ひとりの交通安全意識の徹底にもつながっている。

新庄村公民館

モルックやろうぜっ！！！

■ねらい（解決したい地域課題）

近年、新庄村では少子高齢化が進み、お年寄りの方と小学生や中学生が交流できる場が年々減少しており独居老人の方も増加し何かいい方法がないか探している時にニュースポーツであるモルックに出会いました。モルックを通じて多世代交流を図り、健康増進を目的として月に一度モルック講座を行っています。

■活動の様子



保育園児からお年寄りの方まで！！

10月13日のスポーツ
の日には新庄村では初
となるモルック大会を
開催しました！！



■効果（参加者の声等）

「初めてやったけどすごく面白くてハマった、サロンなどで活用したい、次のモルック講座はいつですか？？」など参加していただいた方全員に興味を持っていただいているので今年度だけではなく来年度も引き続きモルックを通じて世代間交流や健康増進を図っていきたいと思います。

鏡野町立中央公民館 かがみの未来じゅく

◆ねらい（解決したい地域課題）

4つの地区（鏡野、奥津、富、上齋原）が1つになっている鏡野町では、住んでいても大人こども問わず、鏡野町について知らない部分が多い。本講座は小学生を対象に鏡野町の地域や人にスポットを当てた様々な体験を通して、その魅力を再発見し、楽しんでもらう講座。1年を通し、各季節の中で5つの講座を体験する。

◆活動の様子（全5回。報告書では①を紹介。）

「講座内容」①鏡野町名産のひらめ（あまご）のつかみ取り！捕まえた魚は塩焼きで食べよう！

②町内在住講師による、フォトタンブラーづくり！思い出を作品にしよう！

③来年の午年にちなんで、町内の遺跡から発掘された陶馬をつくってみよう！

④町内勤務講師による、ダンス講座！体で自分を表現してみよう！

⑤上齋原で雪遊び！雪合戦、雪だるまづくりで雪まみれになろう！

「初めてつかみどりしたよ！」
全身で鏡野町の魅力を満喫★



地域の青年団も協力！
保護者同士の交流の場にも👍

鏡野町名産 ひらめのつかみ取り に挑戦！

「捕ったひらめは、
自分でさばき、
串も打つ！」



「焼き立ての魚は、いつもよいおいしい！」
自然とみんな笑顔に😊



◆効果（参加者の声等）

毎年、「貴重な体験ができる良い機会になった！」、「こんなに楽しい、おいしいとは思わなかった！」等の感想をいただいている。鏡野町の魅力を楽しむと共に、地区や家庭を越えた学びや交流の場づくり、郷土愛や非認知能力、自己肯定感の育成にもつながります。本講座をはじめ、様々な活動を通して、家庭、地域、自治体が協力し、こどもたちの成長を見守る中で、みんなで「人、もの、環境の価値の再定義」ができる事を目的としています。

きのこの森プレーパーク事業

■ねらい(解決したい地域課題や目的)

外遊びや身体を動かしてあそぶ機会が減少していることを受けて始めた事業。子どもたちが屋外で、創意工夫し、挑戦や失敗を体験できる場をつくることを目的としている。

子育て中の保護者や地域の支援者(ボランティア)等が協力しながら、子どもの心と体の発達を促進させていく。



▲屋外の「プレーパーク」に設置した即席のブランコ



▲スタッフによる「竹灯籠」づくり(ワークショップ)の実施風景



▲お昼にはそれぞれが持ち寄った昼食をいただきます。火起こしを体験、BBQも可能です。



▲イベントには毎回、幼児教育を学ぶ学生ボランティアも駆けつけてくれます。学びを実践する場としても、有意義な時間となっているようです。

■効果

「舗装などされていない山道のため、少し危ないなと思う場面もありましたが、大自然の中でおもいきり(全力で)駆けまわったり、昆虫を探したりしていました。」など、普段と異なる環境への戸惑いが聞かれた一方、子どもの一所懸命さに関心を寄せる参加者の声がありました。

もちろん安全管理を徹底した上で、自然のままの山道を走り回ったり、火を使ったりと日常生活ではなかなか体験出来ない機会を提供することで、子どもたちの好奇心に火を付け、多様な学びにつながっているようです。今後も引き続き、子どもたちの貴重な「遊び場」としての機能を充実させていきます。

奈義町文化センター

プロのソプラノ歌手から学ぼう！

オニレンチャンカラオケ教室

◆ねらい（解決したい地域課題）

現在、公民館への来館者は若者が少なく、年配の方が多い状況です。そこで、若年層の来館者を増やすための取り組みとして、館内のカラオケ機材を活用し、小中学生向けのカラオケ教室を企画することになりました。この企画では、町内で活動しているソプラノ歌手を講師としてお招きし、某人気テレビ番組の影響をヒントにした内容を盛り込みます。この教室を通じて、より多くの子どもたちが楽しみながら公民館の活動に興味を持つってくれることを期待しています。

第1回

目指せオニレンチャン！？

ボイストレーニングをしてみよう！



ナイストレーニング！

第2回

目指せオニレンチャン！？

十八番をステージで熱唱してみよう！

また次も来てくれるかな？



◆効果（参加者の声等）

「広い客席で歌うのが初めてだったので緊張しましたが、いい経験になり、度胸がついた気がします！」という参加者の声や、「来年も企画してほしい！次は友達を連れてきます！」といった意見がありました。また、見学に来ていた親御さんからも感謝の言葉をいただきました。さらに、講師の先生からも「とても楽しかったので、ぜひ来年もやりたいです！」と好評の声をいただき、この企画は大成功でした。少しずつですが、この講座をきっかけに、公民館を身近な場所として感じてもらえる人が増えてきていると実感しています。



自分の学びも
子どもたちの学びも
応援したい。

体験活動に

高齢者大学に

学校園に

あわむすび

村民の「できること」「やってみたいこと」を登録し、村民同士をつなげる人材バンク事業。

- ①プロフィールとして、仕事や経験など「できること」や「やってみたいこと」を登録
- ②スタッフは、登録された「できること」「やってみたいこと」をマッチングして声かけ
- ③村民は、「あわむすびカタログ」を見て、興味があればスタッフへ

登録：22名 2団体

自己評価：まだまだこれから
まずは登録100を目標に

村民をつなげる人材バンク
**あわむすび・
子ども応援団**
あわくら会館

子ども応援団（地域学校協働ボランティア）

教育コーディネーター 一般社団法人Nestと連携

あわむすび登録時に、併せて登録できる。西粟倉村の子どもたちが地域社会（学校園や社会教育事業）での活動や学びを通して、知識・技術・あり方を学んでいくサポートをする。

「あわむすびカタログ」を学校園や地域の教育団体に共有し、カタログをもとに派遣依頼され、活動する仕組み。

①起業や地域おこし協力隊をはじめとする移住者が多い中で、村民のつながりを作るための地域人材の情報収集が課題であった。

②学校園の地域学校協働活動を行う際、協力人材の情報を学校園が取得する仕組みの構築が課題であった。

課題解決

- ①あわくら会館に人材カタログを置くことで、学びや繋がりの触媒に。
- ②カタログで見やすく、地域学習人材の把握や依頼が容易に。教育コーディネーターと連携し、人材発掘も。

久米南町コミュニティセンター カブトムシと触れ合おう！

◆ねらい（解決したい地域課題）

暑さのせいか、近年外でもなかなか昆虫の発見が出来ず、また外遊びもしにくくなっている。そして、今後小学校統合により各地区の子どもが集まることで、今までより多くの仲間と活動することが必要になる。それらをふまえて、屋内で熱中症を避けつつ、昆虫について触れ合いながら学ぶ。また、他地区の近い年齢の子ども同士が集うことで、他地区の子どもとの交流を図る。

◆活動の様子

まずはカブトムシについてお勉強 生态や捕まえ方、触り方について教えてもらうよ



クイズもあり、手を挙げて周りの親御さんや友達と相談しながら回答しました。より詳しく調べたりもできるように、図書館からカブトムシに関する本も借りて用意しました。

実際にカブトムシに触って オス・メスの違いを確かめよう！



メスはオスよりもすぐに土に潜るよ 見つけられるかな～



カブトムシ関連グッズが当たる
bingo大会も実施★



だんだんと隣の子のカブトムシ達と、闘わせようとしたり見比べたり、他地区の子どもも交流しながら遊んで、最後には、オスメスを一匹ずつ各家庭で持つて帰るぐらい好きになって帰りました♪

◆効果（参加者の声等）

「来年もぜひしてほしい！」「ほかのムシについても同じような企画があったらうれしい」と親御さんを通じて後日にお話いただくこともあります。子どもたちが楽しんだだけでなく、やはり外で昆虫を見ることが少なくなっているのか、保護者からも前向きな感想をいただけた。

また、里帰り中の町外在住の子どもさんたちの参加もあり、普段町内で会うことの無い、同世代の子ども同士での交流も出来ていた。

親子で学ぼう！～工作＆調理～

◆ねらい

毎年夏休みを中心に、主に小学生を対象とした親子工作教室を開催してきている。これに加えて、今年度は中学生も含めた親子調理教室を行った。ねらいとしては、以下の点である。

①親子のふれ合いを深める。②夏休みの思い出をつくる。③早い時期から公民館の活動に触れ、生涯学習の意識をもつ。

◆活動の様子

(1) 親子工作教室

①LED ランタン作り

7/30(水) 8組の親子参加



あかりの役割や LED の特徴等を学習

②トンボのストラップ作り

8/7(木) 2組の親子+飛び入り小学生2名



教え合いながらの作業

(2) 親子料理教室

サンドイッチ・フレンチトースト

8/24(日) 5組の親子参加



大人に手伝ってもらいながら完成



自分で作ったランタンを大事にする姿も



パラシュートコードを使って、ストラップを3個製作



3種類のサンドイッチとフレンチトーストを作り、みんなで会食

◆成果

- ・LED ランタン作りでは、親子で環境について学び、省エネの意識を高められた。
- ・親子で一緒に工作に取り組み、会話する場面が多く見られた。
- ・地域の元ホテル料理長をお招きしサンドイッチなどプロの技を目の当たりにし、親子で貴重な体験ができた。
- ・子どもたちは、公民館で行われている講座について初めて参加し、生涯学習への意識付けになった。

◆課題

- ・参加人数の少ない講座もあり、募集の方法を工夫したい。
- ・児童生徒を対象とした講座はまだ少なく、夏休み期間以外にも参加できる講座を設定していきたい。

里山学校 in あさひなた

写真で知る

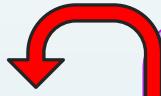
旭の貴重な生きものたち

ねらい

地元の人も知らない旭の生きものを知り
自然保護の大切さを学ぶ



活動の様子



講師の方が旭地域で見つけた
生きものの写真を見ながら旭
の自然を再発見！



成果

生物多様性 が大切

講座を通して地域の自然観察や保全活動の大切さを知った
これからも自然豊かな旭地域を守って行かなくていけない

課題

旭地域は、自然が沢山あって生きものも沢山いると思つ
ていたが、確実に生きものの数は減りつつある
一人一人が意識を高める必要がある

柵原学園ボランティアのスマート講座IN通りの場

◆ねらい

美咲町では、高齢者の閉じこもり防止や健康増進を目的に、地域に密着した「通りの場」が設けられています。町内21か所の通りの場があり、年間1万人が定期的に頭の体操や軽運動と交流を行っています。今回、柵原学園9年生（義務教育学校）と地域の高齢者の交流また、スマート講座の企画・講師を行うことで自己肯定感を養うことを講座の目的としました。

◆活動の様子

令和7年7月9日（水）10:00～11:30 柵原総合文化センター 大ホール

参加者：柵原学園ボランティア9名・地域高齢者25名 合計34名



前半は高齢者と体操



役に立つ

スマート講座

日程 令和7年7月9日

場所 柵原総合文化センター
大ホール

時間 10時～11時半

①LINEや写真の撮り方

②緊急連絡の使い方

③マップの使い方説明

などを中学3年生が詳しく教えてください

9年生が作ったチラシ

通りの場の目的等 町担当職員から説明を聞く



間違い探し
で頭の体操



①LINEと写真の撮り方
②緊急連絡の使い方
③マップ使い方
9年生が担当毎に講師を務める

最後みんなでパチリ



個々の質問に親切に答える

◆効果

柵原学園9年生と地域高齢者との交流が第一の成果と思います。通りの場の存在・意義についても知ることができた。地域の高齢化が進む中、高齢者がこの講座を通してふれあい、スマートを教えてもらうことを大きな喜びに感じていただいたことは、講座開催の意義がありました。

スマート講座の内容と進捗は、全て柵原学園9年生にお願いした。自己肯定感を養うことができたことも大きな成果だと思います。

◆今後の課題

地域の高齢者と青少年が助け会える地域の夢は、このような多く取り組み継続する必要があります。

吉備高原公民館 とんどで舞いあがれ、地域のチカラ！

◆ねらい（解決したい地域課題）

新規分譲が続いているニュータウン地域である。引っ越しってきて間がない方も多く、まず「地域の活動への参加のきっかけ」としていただく事と「より多くの住民が顔見知りになる」ことで、日常の困り事の解決から防犯・防災の観点でも「お互いに親密な助け合いが可能となる地域力のさらなる向上」を目指したい。

◆活動の様子（写真等も入れて）

毎年開催のとんど焼にあわせて 防災教室も開催！



「吉備高原都市はひとつに」の掛け声のもと多くの方が参加してくださいました。まず、正月を迎えた神様を送り出す神事として持ち寄った正月飾り、しめ縄、門松、書き初めなどを燃やしました。



けむりをあびながら、せんざいをいただいたよ！
みんなで食べるとおいしいな！

たくさんの人と一緒にやったよ



防災教室では実際の消火器を使った消火体験や
防災食の試食会などをしました。
新旧、老若男女、住民がチカラをあわせて色々な事に
楽しくチャレンジしました



◆効果（参加者の声等）

行事の実施後にお会いした参加者から「はじめて地域の行事に参加したがいろいろな方とお知り合いになれて楽しかった」「知った方が増えたので日常生活に安心感が生まれた」などの声をいただきました。また、防災教室では「消火器を初めて使ったが操作がわかって良い体験になった」「防災食が意外とおいしかった」など、緊急時の知識を得る体験になってくれた様です。一番のねらいが達成できた様なので今後も地域住民の交流をすすめる活動を実施します。